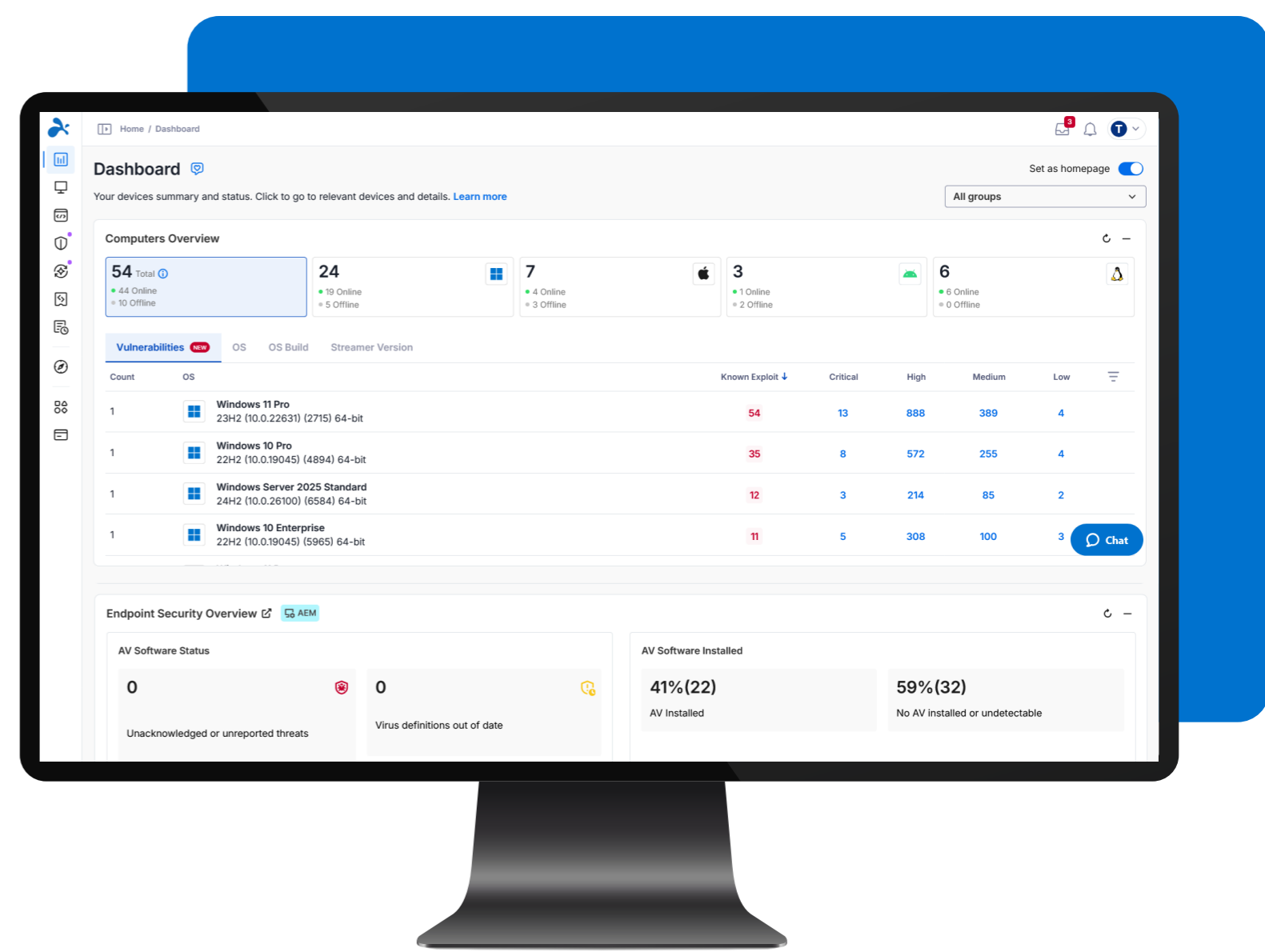




手動パッチ管理から、
自律化された管理運用へ。
次世代のセキュリティ運用へ進む準備はできていますか？



エンドポイント管理の現状診断チェックリスト

手動または半自動によるエンドポイント管理は、限界を迎えつつあります。環境の分散化と複雑化が進むなか、パッチ適用の遅れ、可視化できない領域、ツールの乱立が、リスクと運用負荷を高めています。

自立型エンドポイント管理(Autonomous Endpoint Management / AEM) は、現在の運用状況にかかわらず、手作業を削減し、セキュリティ体制を強化し、エンドポイント運用をシンプルにするためのアプローチです。以下のチェックリストを使って、現在の環境が最新のAEMで実現できる状態にどれだけ近づいているかを確認しましょう。

自律型エンドポイント管理 (AEM) 自己診断

現在の貴社の状況に当てはまる項目にチェックを入れてください。

すべてのエンドポイント、OS、インストール済みソフトウェアを網羅したインベントリがあり、常に最新の状態で更新されている。

手動レポートに頼ることなく、エンドポイントの健全性、パッチ適用状況、脆弱性をリアルタイムで可視化できている。

パッチ適用プロセスが標準化・自動化されており、優先順位付けや例外対応に関する明確なポリシーが整備されている。

全体に展開する前に、一部のデバイスでパッチや自動アクションを事前に検証できる。

パッチ適用の成功・失敗をリアルタイムで監視し、チケットの起票を待たずに問題を修復できる。

エンドポイント戦略がパッチ適用にとどまらず、プロアクティブな修復、構成管理、コンプライアンスレポートまで含んでいる。

エンドポイント管理がリモートアクセスやリモートサポートと連携しており、自動化に人の支援が必要な場合でも、IT部門が迅速に問題を解決できる。

POSシステム、キオスク端末、Androidベースのエンドポイントなど、従来型ではないデバイスも、手作業のワークフローを作成することなく管理・サポートできる。

エンドポイント管理ツールがAV/EDRなどの高度なセキュリティソリューションと連携しており、単独で分断された運用になっていない。

エンドポイント管理環境において、契約している機能の大部分を活用し、その価値を十分に得られていると確信している。

診断結果の見方

8-10項目にチェックが入った場合

自律型エンドポイント管理（AEM）が目指す姿に近い運用ができています。今後は、ツール構成の簡素化、運用負荷の削減、そして契約しているだけでなく自動化を実際に活用できているかを確認することが重要です。

4-7項目にチェックが入った場合

AEMの一部は導入できていますが、可視性、連携、実行面にギャップがあり、それが運用の足かせになっている可能性があります。この段階では、ツールの乱立やプラットフォームの活用不足が課題になりやすい傾向があります。

0-3項目にチェックが入った場合

手動プロセスや限られた可視性によって、リスクが高まり、IT部門の時間が多く費やされている可能性があります。AEMは、既存環境を一から作り直すことなく、管理の徹底、一貫性のある運用、そして安心感のある体制づくりを支援します。

AEMが重要な理由

Gartnerは、自律型エンドポイント管理（AEM）により、パッチ適用サイクルを55～94日から6～13日へ短縮できると推定しています。¹

実際に得られる効果は、次のような点にあります。

- 常時監視に頼らない、**迅速なパッチ適用サイクル**
- 継続的な可視化と自動修復による、**セキュリティ体制の強化**
- 監査対応に必要なダッシュボードとレポートによる、**コンプライアンス対応の簡素化**
- 反復的で付加価値の低い作業から解放される、**IT部門の効率化**

ヒント：まずは、可視化、自動化しやすい業務、特定のユースケースなど、取り組みやすいところから始めることができます。段階的に広げていくことで、リスクを抑えながら早期に効果を実感でき、より強力なIT運用体制へと近づけます。

自社に合ったAEMアプローチの選び方

多くのエンドポイント管理プラットフォームは「あらゆる機能」をうたう一方で、複雑さ、使われない機能、高いコストによって現場の負担を増やしてしまうことがあります。その結果、ツールは導入されても、十分に活用されないままになりがちです。

Splashtop AEMは、こうした状況を変えるために設計されています。

- 複雑さを抑えた、実用的な自動化
- エンドポイント管理とリモートサポートを統合した単一プラットフォーム
- 不要な機能にコストをかけず、短期間で価値を創出

自動化をこれから始める場合でも、既存環境の簡素化を目指す場合でも、AEMはエンドポイント管理を複雑にするのではなく、よりシンプルにするものであるべきです。Splashtop AEMが、貴社のAEM活用をどのように支援できるかをご確認ください。

デモを予約する

出典

¹ Gartner, Innovation Insight: Autonomous Endpoint Management, Figure 2, Tom Cipolla, Dan Wilson, 2025年1月15日.

注記 / 免責事項

GARTNERは、Gartner, Inc.および/またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、本資料では許可を得て使用しています。All rights reserved.